

福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（4月）

派遣先大学：フィンドレー大学

氏名：得政佑真

みなさん、こんにちは。フィンドレー大学に交換留学生として行っている国際地域学部の得政です。今月で最後の報告書になりますね。ほんとに日が経つのは早い気がします。留学が始まった8月から今日まで忙しく、あっという間に終わってしまった気がします。4月末には期末試験期間が始まります。今学期テストは2つと少なかったですが、その分、ペーパーやプレゼンテーションなどが多くありました。今月は、今月行ったことと、この留学を通して学べたことについて話していきたいなと思っています。

まず、4月の頭には学内シンポジウムで発表する機会を頂くことが出来ました。私は、卒論テーマである高等教育について発表しました。当日、会場には先生方や知人など多くの人っていて、過去最高に緊張しましたが、無事に終わらせることが出来ました。

期末試験期間の前には、日本人留学生と日本語学科の学生と一緒に別れパーティーを行いました。フィンドレー大学で出会った友達と離れてしまうのはさみしいですが、また福井大学にも何人かの学生が留学をするそうなので、楽しみです。

期末試験は具体的には4月29日—5月2日まであります。私は、4月30日に時点で期末試験は終わりますが、学生によっては最終日まで試験がある学生もいます。今回は前学期の反省を活かして試験に向けて計画よく準備することが出来ました。試験当日もスムーズに問題を解くことが出来て成績が楽しみです。今学期は2つの大きなプレゼンテーションがありました。どれもグループワークで、他のアメリカ人の学生数人とペアになって行いました。プレゼンテーションも何だかんだで終わらせることが出来て、もうあとは帰国に向けてゆっくりと準備しながら残りの日々を過ごすだけです。

この留学を通して一番学べたことは自分自身がマイノリティーのグループになることの大変さです。福井大学に在る間は、周りは日本人だらけで、日本語を使って当たり前のようにコミュニケーションをとることが出来ますが、アメリカ滞在中では、その当たり前のことがありません。周りはアメリカ人、他の国からの留学生だし、コミュニケーションの主体は英語です。また、自分が当たり前だと思っていた日本の文化も向こうでは全く受け入れられることはありませんでした。マイノリティーグループに属することで、たくさん苦労しましたが、この経験こそがぼく自身をさらに成長させてくれたのではないのでしょうか。自分が当たり前だと感じていた日本での生活を客観的に観察することもでき、これから日本に勉強しに来る留学生に対して、どのような事が大変なのかということを知ることが出来ました。アメリカ留学で、私は語学向上以外の部分で留学をしなければ学べないことを学ぶことが出来た気がします。また、私を支えてくださった両親、先生方、友達にも感謝をして無事に日本へ帰りたいと思います。



シンポジウムの時の写真です。この時はとても緊張しましたね。



Farewell Party の写真です。9 か月ってあっという間でしたね。また、みんなと会いたいです！